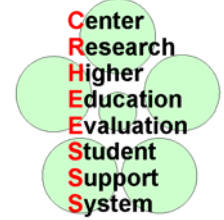


週刊センターニュース

No.109



第109号(2006年5月15日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

ランチョンセミナーライブ配信中

お昼のミニ講義「ランチョンセミナー」、ネット配信中です。12時10分には

<http://www.el.kanazawa-u.ac.jp/live/luncheon.html> にアクセスしてみてください。

共同学習会のご案内

第115回 日時: 5月18日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

報告者: 鈴木 健一(保健管理センター)

日向 繁(学生部学務課)

青野 透(大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

テーマ: 『『学習・研究環境改善のための学生生活調査 報告書』(2005年金沢大学)分析報告
その1 - テーマ 学生は学生相談をどうとらえているか、 学生は職員をどう見ているか - 』

趣旨: 昨年1月に実施した学生生活調査の報告書が全教職員に読めるように刊行された。報告書の分析結果についてはすでに『週刊センターニュース』で青野が報告を行っているが、広く議論の対象とすべき事項を中心に本共同学習会で検討することとする。その一回目として、第一部で学生相談について、第二部で学生の職員観についてとりあげる。なお、鈴木・青野両名は、5月21日の日本学生相談学会第24回大会で「学生相談から始まる教育改善」と題して報告予定であり、その報告を前に、本学における取り組みに関する学内教職員・学生の意見を確認することも目的にしている。さらに、本年度実施の学生生活調査項目の見直し作業の一環ともなるものである。学生相談担当教員、学生系職員、および学生の積極的参加を期待したい。

大学コンソーシアム京都2006年度第1回高等教育政策セミナー参加報告

2006年5月13日(土)、大谷大学で開催された大学コンソーシアム京都2006年度第1回高等教育政策セミナーに参加した。セミナーのテーマとして「授業評価と大学改革」が取り上げられ、大学評価の中で重要な位置をしめる自己評価、とくに教育評価に焦点をあわせ話題提供がなされた。

川口昭彦氏(大学評価・学位授与機構)は、評価機関の立場から、機関別認証評価との関連で、授業評価に対する考え方を述べられた。21世紀に求められる大学像は、評価文化を基礎とする社会に開かれた大学であり、同時に「開かれた濃密さ(多様であり、密度の高い)」を担保するのが(第三者)評価であると述べた。そしてそこで大学人に求められるものとして、社会との接点からの情報を的確に把握し評価する能力、さらに大学に対する批判に対して説得力のある言葉で反論する(発信する)能力の大切さを強調された。次に個性化・自由化のベクトルと質保証との調整をめぐる高等教育政策の歴史的経過や法改正について説明をした後、日本の機関別認証評価は、教育研究活動の質(大学として具備すべき要件)保証に資する accreditation と、評価結果のフィードバックを通じた教育研究活動の改善を意図する evaluation の二つを、(外国と比べた場合)均等に重視しようとするところに特色があると述べた。

こうした背景の下で、すでにほとんどの大学で実施されている授業評価だけでなく、今後は費用対効果の点でも期待できる教員相互の授業評価をもっと推進すべきであると主張する。大学改革の重要課題は、意識改革であり、教員の意識改革を超えて、「学生に対する意識改革」が必要であり、これからはますます、学生が在学中に大学で何を習得したのか、その付加価値の程度にかかっていると主張された。

(川口氏の報告に続き、京都外国語大学の奥川義尚氏よりアメリカの大学評価について報告があり、専門学会等による大学評価の概略や、大学評価の構成のあり方について説明がなされたが、授業評価との関係での発言は少なかったため、ここでは省略する)

質疑応答では、授業参観実施に対する教員の意識のあり方について質問があり、学問分野によって(さらに理系の中であっても)受けとり方は違う!と率直に回答されたり、また教員へのフィードバックにおいて有効な方法はないかという問い(こうした問いは、教育改革・カリキュラム改革の現場に直接に携わっている者にはやはり切実である)に対して、「個々の教員の教育成果は正確には分からないとしても、学科(コース)全体としてみれば教育成果の上昇が示されていれば、よいのではないか。そういう意味で、教員間の授業評価=相互評価も意味があるものといえるのではないか」と述べられた。

今回のセミナーに参加して、授業評価のあり方について再考する機会となったが、どういうふうな自分の個性に応じて論理的に説明していくのか、ということも、それぞれの特色を有する大学が主張すべき「個性」の一つである、というように感じた。(文責 評価システム研究部門 渡辺達雄)

当センターの研究成果を、学会で報告いたします

日本学生相談学会第24回大会 (担当校: 甲南大学・甲南女子大学)

日時: 2006年5月21日(日)・22日(月)

場所: 甲南大学(神戸市東灘区)

研究発表 (5月21日 15:00~15:45)

タイトル: 「学生相談から始まる教育改善 - 金沢大学の取組についての実践報告 - 」

報告者: 鈴木健一(金沢大学)・青野 透(金沢大学)

日本学生相談学会は、1955年に始まる「学生相談研究会」を前身とし、87年に設立(同年、日本学術会議法にもとづく「学術研究団体」登録)され、その目的に「全国の大学及びその他の高等教育機関の学生相談室、カウンセリングセンター、保健管理センターに関係しているカウンセラー、アドバイザー、教職員等、学生の岐路に立会い援助活動を行っている実践者・研究者の学会」と記している。2001年からは大学カウンセラー資格認定に乗り出すなど、学生相談の充実に努めている。

大会シンポジウム: 「学生相談と個人情報の取り扱い」などを含む今次の大会の詳細は <http://www.soc.nii.ac.jp/jasc2/gakuseisoudan.index.html> をご参照ください。

なお、大会前日20日に同大学で開催されるワークショップは、その終日参加をもって、「臨床心理士」資格認定申請または継続申請のポイントとなる予定である旨、学会HPに掲載されています。今回はすでに参加申し込みが締め切られていますが、臨床心理士資格に関心のある学生・院生にも学会開催について情報提供いただければ幸いです。

寄贈資料について

広島大学高等教育研究開発センター調査室のご厚意により、多数の資料の寄贈を受けました。昨年、大学基準協会の認証評価を受けた大学の自己評価報告書20数点、学生生活調査報告書十数点、さらに高等教育研究開発センターがこれまで刊行してきた出版物(『大学論集』『高等教育研究叢書』など)和雑誌および国際会議などの英文報告書、あわせて約100点が含まれております。皆様が利用しやすいよう、漸次、図書室の整理を進めていきます。図書の貸出・閲覧も可能ですので、是非ご利用下さい。また併せて、各学部のFD資料など大学に関する資料などご寄贈頂ければ幸いです。